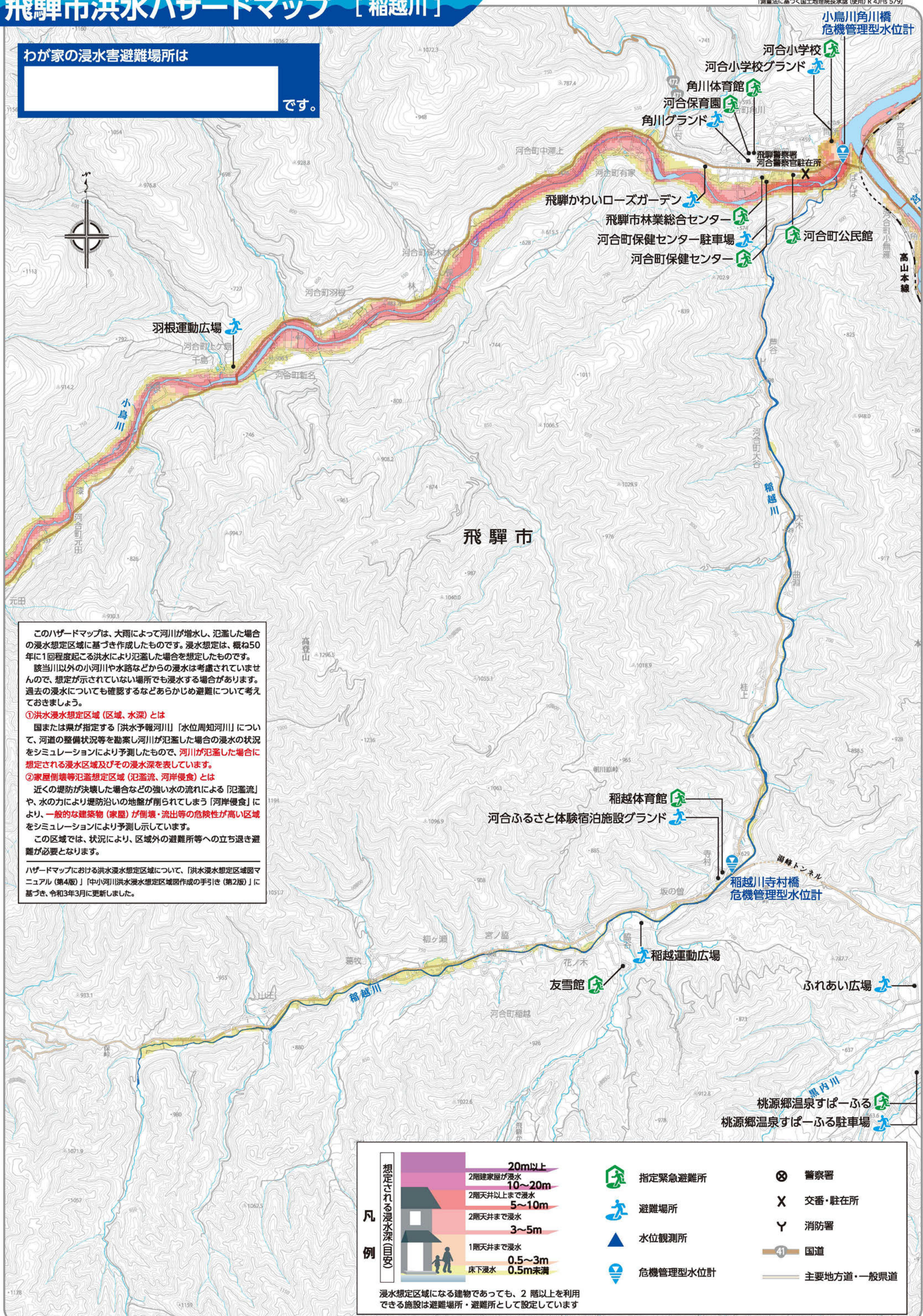


飛騨市洪水ハザードマップ [稲越川]

測量法に基づく国土院院長承認 (使用) R 4JHs 579J

わが家の浸水害避難場所は

です。



大雨の時など避難の際に備えて、家族全員がわかる場所に貼っておきましょう。

このハザードマップは、大雨によって河川が増水し、氾濫した場合の浸水想定区域に基づき作成したものです。浸水想定は、概ね50年に1回程度起こる洪水により氾濫した場合を想定したものです。該当川以外の小河川や水路などからの浸水は考慮されていないので、想定が示されていない場所でも浸水する場合があります。過去の浸水についても確認するなどあらかじめ避難について考えておきましょう。

①洪水浸水想定区域 (区域、水深) とは
国または県が指定する「洪水予報河川」「水位周知河川」について、河道の整備状況等を勘案し河川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したもので、河川が氾濫した場合に想定される浸水区域及びその浸水深を表しています。

②家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流、河岸侵食) とは
近くの堤防が決壊した場合などの強い水の流れによる「氾濫流」や、水の力により堤防沿いの地盤が削られてしまう「河岸侵食」により、一般的な建築物 (家屋) が倒壊・流出等の危険性が高い区域をシミュレーションにより予測し示しています。

この区域では、状況により、区域外の避難所等への立ち退き避難が必要となります。

ハザードマップにおける洪水浸水想定区域について、「洪水浸水想定区域図マニュアル (第4版)」「中小河川洪水浸水想定区域図作成の手引き (第2版)」に基づき、令和3年3月に更新しました。

凡例		20m以上	2階建家屋が浸水		指定緊急避難所		警察署
		10~20m	2階天井以上まで浸水		避難場所		交番・駐在所
		5~10m	2階天井まで浸水		水位観測所		消防署
		3~5m	1階天井まで浸水		危機管理型水位計		国道
		0.5~3m	床下浸水				主要地方道・一般県道
		0.5m未満					

浸水想定区域になる建物であっても、2階以上を利用できる施設は避難場所・避難所として設定しています